

老年看護学実習レポート分析からみえる教育的課題

東 孝至, 栗山 真由美

看護学講座 広域看護学ユニット

【目的】老年看護学実習の履修における「老年観」について、レポート結果から高齢者を社会的弱者として捉えてしまう「認知の歪み」につながる語彙を抽出し、今後の老年看護学教育の教育的効果を図る。

【方法】分析は計量テキスト分析ソフト「KH coder」を用い、研究に同意したA看護大学看護学生56名の「老年観」に関連した頻出語を抽出し、それぞれに対して頻出語上位50を抽出し、抽出後共起ネットワーク分析し、抽出された認知の歪みについてKWICコンコーダンス機能を用いて分析した。

【倫理的配慮】本研究はA大学のヒト研究審査委員会の承認を得た。

【結果】老年観を関連語とした共起ネットワークでは、高齢者に対するプラスの表現(2語)より、マイナスの表現(6語)が抽出された。「老年看護学実習前」に認知の歪みにつながる文脈が多く読み取れたが、二重否定に用いて「実習後」には肯定的に捉えている文脈が見られた。

【考察】抽出された認知の歪みにつながる語彙を踏まえ、実習前の老年看護学概論や老年看護学援助論で「なぜそのような老年観をもつのか」と内省することで、更なる老年観の向上として教育的効果が望めると考えられる。

感染症発生後のA病院における新生児ケアを担当する看護者への 感染予防に関する負荷の検討

中井かをり

看護学講座 広域看護学ユニット

【目的】A病院においてMRSA感染発生以来、感染予防策が入念に行われている。本研究では、看護者が担っている感染予防対策に要している時間を集計し、看護者の負担の程度を分析する。

【対象と方法】2002年7月に、史上最大規模のMRSA感染が発生したA病院の産科混合病棟に所属する看護職と、その病棟で出生した正常新生児を対象とした。研究者がマンツーマンタイムスタディ法を用いて正常新生児への看護ケアと看護時間を測定したデータから、感染予防対策に要した時間を抽出した。

【結果】生後日数ごとの看護時間は、日勤帯8時間の中の2時間余りの時間を1人の正常新生児に提供していた。その中から抽出した感染予防のための時間は、18分53秒から33分19秒であり、看護時間全体の13%から21.2%を占め、平均時間は16.2%であった。感染予防対策の時間は、生後3日が最も多くの時間を提供していた。

【結論】感染予防は医療に携わるすべての医療人が取り組むべきことではあるが、看護者免許がなくとも実施できる部分はあると考える。正常新生児には看護人員が配置されておらず、育児を行っていくうえで母親は看護者を見本として育児技術を獲得する。母親への育児技術習得には十分な時間をかける必要がある。より良い新生児への看護を提供するために感染対策を看護助手レベルでも実施可能な業務として引き継がれるべきであると考えられる。